

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）		
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数	
I-1-(1)- ⑥ 地域などと行政の連携・協働による子育て支援の推進	1	⑪	⑪	地域に役立つ公園づくり事業	みどり・公園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2カ年で再整備を行う。	地域に役立つ公園づくり事業による整備公園数	目標	20 公園	20 公園	16 公園	—	縮小	77,000	26,000	減額	6,825	課長 0.05 人	係長 0.10 人	職員 0.70 人	順調	対象とする小学校区内の公園数は、再整備などが進んできているため目標の公園数を16公園としている。	順調	今後も継続して地域と行政が連携し、魅力ある公園づくりに取り組む。
I-3-(1)- ② 教育関係施設の連携による人材育成	2	④	④	【施策評価のみ】 到津の森公園による学習プログラムの提供	公園管理課	【施策の内容】 小学生を対象とした、動物や自然とのふれあいを通して命の大切さや自然環境の保護の必要性を学ぶプログラムの提供	【施策の指標】 「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態	目標	—	—	—	—	—	—	—	—	—	課長 — 人	係長 — 人	職員 — 人	—	—	順調	今後も継続して小学生への学習プログラムを提供する。
II-1-(4)- ④ 総合的な災害対策の推進	3	⑪	⑪	河川改修事業の推進	水環境課	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加している。浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進する。	浸水被害の低減	目標	—	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	河川毎に計画している降雨（1時間で50～70mm程度）に対応できる状態（R15年度）	継続	2,499,700	2,449,700	維持	86,500	課長 1.00 人	係長 1.50 人	職員 8.00 人	順調	平成30年7月豪雨により被害が発生した箇所を中心に、治水能力の向上を図る。その他河川についても、引き続き計画的な治水整備を推進する。	順調	今後も継続して治水事業の根幹となる河川整備を推進する。
	4	⑪	⑪	旦過地区まちづくりに伴う河川整備事業	神嶽川旦過地区整備室	長年市民に親しまれている旦過市場の魅力向上と、市場に隣接する神嶽川の治水安全度の向上のため、河川事業と一体となった旦過地区の再整備を推進する。	神嶽川（旦過地区）の治水安全度向上	目標	—	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	旦過地区において概ね50年に一度発生する降雨にも対応できる状態（R13年度）	継続	80,000	285,000	増額	30,750	課長 0.50 人	係長 1.00 人	職員 2.00 人	順調	旦過地区土地区画整理事業（市施行）の事業認可取得に向けた調査・設計等を含め、早期の事業着手に必要な業務を実施する。		
	5	⑪	⑪	豪雨災害から市民を守る緊急対策事業	水環境課	平成30年7月豪雨により被害が発生した河川の改修、河川情報システムの強化、護岸の長寿命化を行い、市民が安全・安心を感じるまちづくりを推進する。	浸水被害の低減	目標	—	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	H30年豪雨で被災した河川の浸水対策が完了している状態（R5年度）	—	520,000	770,000	増額	44,000	課長 1.00 人	係長 1.00 人	職員 3.00 人	—	平成30年7月豪雨により被害が発生した河川の改修、河川情報システムの強化、護岸の長寿命化を令和元年度に引き続き行う。		
II-2-(3)- ④ 個人の健康づくりを支える環境の整備	6	③	⑪	健康づくりを支援する公園等整備事業	緑政課	公園に高齢者の健康増進に配慮した健康遊具を設置し、運動教室を開催して、利用者に使い方を説明する。継続的にこの健康遊具を利用することにより、高齢者の体力増進に繋げる。	高齢者に配慮した健康遊具の設置公園数	目標	1 公園	1 公園	1 公園	累計 23公園 (H30年度)	継続	12,000	10,000	減額	3,650	課長 0.10 人	係長 0.10 人	職員 0.20 人	順調	今後も継続して高齢者の健康づくりに資する環境整備に取り組む。	順調	今後も継続して高齢者の健康づくりに資する環境整備に取り組む。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職 位					人数
Ⅲ-1-(1)- ③ まち美化 活動の拡 充	7	⑪	⑪	ボランティアネ 트워크の推進 （道路サポ ーター）	道路 計画 課	市が維持及び管理する 道路において、道路清 掃・美化などのボラ ンティア活動を行う地域の 団体を対象に、清掃用具 や花苗の支給などにより 支援する。	道路サポーター加入 団体数 ※中期目標改訂	—	目標 220 団 体	230 団 体	235 団 体	250団体 (R5年度)	継続	17,029	17,071	維持	9,400	課 長 0.05 人	順調	団体数は順調に増加してお り、引き続き、団体数の増加に 努める。 【中期目標の変更内容】 目標を達成したため、230団体 (令和元年度)から250団体(令 和5年度)に変更。	順調	今後も既存団体の支援や団体 数の増加・維持に取り組む。	
	8	⑪	⑪	ボランティアネ 트워크の推進 （公園愛護会）	公園 管理 課	10名程度の地域住民で 組織されるボランティア 団体で、公園の美化活 動・公園施設の点検や禁 止行為の連絡・公園利用 者のマナーづくり・市民 花壇づくりなどを行い、 活動面積に応じて活動費 を助成している。	公園愛護会の結成数	—	目標 1,160 団 体	1,160 団 体	1,160 団 体	1,160団体 (毎年度)	継続	45,919	45,730	維持	18,135	課 長 0.24 人	順調	公園愛護会が活動しやすい仕 組みづくりに継続して取り組 み、団体数の維持・増加に努め る。			
	9	⑪	⑪	ボランティアネ 트워크の推進 （河川愛護団体）	水環 境課	地域の住民で構成する 河川愛護団体に清掃道具 購入の費用等となる補助 金を交付することによ り、美化活動を広げる。 また、美化活動に参加 することにより、地域の 河川を身近に感じ、自分 たちの川として愛着を持 つような啓発活動へとつ なげる。	河川愛護団体数	—	目標 72 団 体	73 団 体	73 団 体	73団体 (R2年度)	継続	2,440	2,400	維持	440	課 長 0.01 人	順調	引き続き、多くの市民に関心 を持ってもらえるよう河川愛護 団体の活動を推進する。			
Ⅲ-1-(2)- ① 魅力ある 生活空間 づくり	10	⑪	⑪	「花やみどり」に よる彩りと潤い のあるまちづくり	緑政 課	都市景観の向上と潤い のある街づくりを目指 し、花壇（公共花壇）の 整備を行うと共に、市民 花壇やスポンサー花壇、 うえるっちゃ！花壇と いった、市民ボランティ アや企業・団体と一体と なって美しく快適なまち づくりを推進する。	市民花壇活動団体数	570団体 (H27年度)	目標 610 団 体	619 団 体	628 団 体	628団体 (R2年度)	継続	56,180	56,550	維持	23,150	課 長 0.10 人	順調	今後も継続して市民との協働 や街かどの整備など、総合的な 緑化を推進する。	順調	今後も継続して、街かどの花 壇整備や地域ニーズを反映した 公園整備など、魅力ある生活空 間づくりに取り組む。	
	11	⑪	⑪	地域に役立つ公園 づくり事業	みど り・公 園整 備課	身近な公園の再整備に ついて、小学校区単位で 開催するワークショップ で地域住民の意見を聞 き、地域ニーズを反映し た公園整備を行うこと で、これまで以上に利用 される公園を目指す。 計画段階から地域住民 が参加することで公園へ の愛着を高め、地域活動 など公園利用の活性化に つなげる。計画策定後 は、翌年から概ね2カ年 で再整備を行う。	地域に役立つ公園づ くり事業による整備 公園数	—	目標 20 公 園	20 公 園	16 公 園	—	継続	77,000	26,000	減額	6,825	課 長 0.05 人	順調	対象とする小学校区内の公園 数は、再整備などが進んできて いるため目標の公園数を16公園 としている。			

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 番号	SDGs サブ 番号	基本計画の施策を構成する 主要事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）				
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職 位					人数			
Ⅲ-1-(3)- ② 安心して 通行でき る身近な 道路の整 備	12	⑪	⑪	バリアフリーのま ちづくり	道路 計画 課	高齢者や障害者など、 誰もが安全で快適に通行 できるよう、バリアフ リーのまちづくりを進め る。具体的には、歩道の 新設や拡幅、段差解消、 視覚障害者誘導用プロッ クの設置などのバリアフ リー化を行う。	主要駅周辺地区の主 要経路の整備率 ※中期目標改訂	目標	95 %	95 %	100 %	100% (R2年度)	継続	707,695	609,000	減額	26,150	課 長	0.10 人	順調	本市における高齢化率は、全 国平均を大きく上回るとも に、他の政令指定都市の中で最 も高く、高齢化が急速に進展し ている。このような状況のもと バリアフリー化の推進は必要不 可欠であり、着実に取り組みを 継続する。 【中期目標の変更内容】 令和元年度に引き続き事業継 続予定のため、95%（令和元年 度）から100%（令和2年度）に変 更。	順調	今後も誰もが安全で快適に通 行できる環境の整備を推進す る。			
								実績	92 %								係 長	1.00 人								
									達成率	96.8 %								職 員	2.00 人							
Ⅴ-1-(2)- ① 都心のに ぎわいづ くり	13	⑪	⑪	通学路の安全対策	道路 計画 課	登下校中の児童が交通 事故に巻き込まれず、安 心に安心して通学できる 環境を整えるため、教育 委員会や学校関係者、警 察と一体となって、さら なる通学路の安全対策を 推進する。	通学路の危険箇所 における対策完了箇所 数	目標	—	—	—	—	継続	926,195	935,100	維持	26,150	課 長	0.10 人	順調	児童の安全・安心な通学路環 境の整備は、交通安全事業にお いて最も重要な施策であり、引 き続き、対策に取り組んでい く。	順調				
									実績	93 箇 所								係 長	1.00 人							
									達成率	—								職 員	2.00 人							
	14	⑪	⑪	小倉駅・黒崎駅 前の賑わいづくり の推進	道路 計画 課	北九州市の玄関口とな る小倉都心部と黒崎副都 心部の駅前において、魅 力的な都市環境の創造に つながる道路環境整備を 行い、まちの賑わいを推 進する。	歩いてみたくなる歩 行空間を創出	目標	—	—	—	歩いてみた くなる歩行 空間の創出	継続	211,900	187,000	減額	61,500	課 長	1.00 人	順調	引き続き、小倉都心部と黒崎 副都心部における魅力的な都市 環境の創造につながる道路環境 整備を進める。	順調				
									実績	—								係 長	2.00 人							
									達成率	—								職 員	4.00 人							
	15	⑪	⑪	旦過地区まちづ くりに伴う河川整 備事業	神嶽 川旦 過地 区整 備室	長年市民に親しまれて いる旦過市場の魅力向上 と、市場に隣接する神嶽 川の治水安全度の向上の ため、河川事業と一体と なった旦過地区の再整備 を推進する。	神嶽川（旦過地区） の治水安全度向上	目標	—	—	—	旦過地区に おいて概ね 50年に一度 発生する降 雨にも対応 できる状態 (R13年度)	継続	80,000	285,000	増額	30,750	課 長	0.50 人	順調	旦過地区土地区画整理事業 （市施行）の事業認可取得に向 けた調査・設計等を含め、早期 の事業着手に必要な業務を実施 する。	順調	今後も都心のにぎわいづく りに資する事業を計画的に推進 する。			
									実績	—								係 長	1.00 人							
									達成率	—								職 員	2.00 人							
	16	⑪	⑪	紫川の整備	水環 境課	紫川のマイタウン・マ イリバー事業区間におい て、河道掘削等の治水機 能強化を図るとともに、 人工の滝改修や周辺広場 整備等を行い、都心部の 水辺のにぎわいづくりを 推進する。	都心部の水辺空間の にぎわい創出	目標	—	—	—	都心部の水 辺空間の にぎわい創出	—	421,290	348,590	減額	29,000	課 長	1.00 人	—	小倉都心部における水辺空間 のにぎわい創出を図るため、水 辺環境の整備を進める。	—				
									実績	—								係 長	1.00 人							
									達成率	—								職 員	1.00 人							
	17	⑪	⑪	都市再生整備計 画（道路改築）	道路 計画 課	道路拡幅工事を行うこ とで、慢性的な交通混雑 の解消及び歩行者の安全 な通行を確保し、都心へ のアクセス向上を図る。	交通混雑の解消及び 歩行者通行の安全確保	目標	—	—	—	交通混雑の 解消及び歩 行者通行の 安全確保	—	18,000	15,000	減額	15,375	課 長	0.25 人	—	引き続き、小倉都心部の魅力 を高め、事業活性化につながる 道路整備を進める。	—				
									実績	—								係 長	0.50 人							
									達成率	—								職 員	1.00 人							

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
V-2-(2)- ① 広域物流 ネット ワークの 強化	18	⑪	⑪	自動車専用道路 ネットワークの整備	道路 計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	—	13分 (R9年度)	継続	5,456,666	2,988,333	減額	69,000	課長 1.00 人	順調	引き続き計画的に主要道路の整備を進める。	順調	今後も計画的に道路整備を推進する。
									実績	—								係長 2.00 人					
	19	⑪	⑪	主要な道路の整備 （恒見朽網線など）	道路 計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	—	28分 (R7年度)	継続	8,007,858	6,278,167	減額	217,250	課長 3.00 人	順調	引き続き計画的に主要な道路整備を進める。	順調	
									実績	—								係長 6.50 人					
									達成率	—									職員 5.00 人				
V-2-(2)- ② 市民の交 通利便性 の向上と 産業活動 の支援	20	⑪	⑪	自動車専用道路 ネットワークの整備	道路 計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	—	13分 (R9年度)	継続	5,456,666	2,988,333	減額	69,000	課長 1.00 人	順調	引き続き計画的に主要道路の整備を進める。	順調	今後も計画的に、広域物流ネットワークの強化や市民の交通利便性の向上と産業活動の支援に資する道路整備を推進する。
										実績	—								係長 2.00 人				
	21	⑪	⑪	主要な道路の整備 （恒見朽網線など）	道路 計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	—	28分 (R7年度)	継続	8,007,858	6,278,167	減額	217,250	課長 3.00 人	順調	引き続き計画的に主要な道路整備を進める。	順調	
									実績	—								係長 6.50 人					
									達成率	—									職員 15.70 人				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 番号	SDGs サブ 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）				
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数			
V-3-(1)- ② 都市基 盤・施設 の適正な 維持管理	22	⑪	⑪	橋梁・トンネル・ モノレールの長寿 命化への計画的な 取り組み	道路 維持 課	市内には、約2,000の 橋梁と39本のトンネル、 総延長約9kmのモノレ ールがあり、高齢化・老朽 化が進行していることか ら、予防保全の観点での 長寿命化事業に取り組ん でいる。 事業の実施にあたって は、施設毎に個別設計 画を策定し、5年に1回 の定期点検に基づく計 画的な維持管理を実施 することで、市民の安全 ・安心を確保するととも に、トータルコストの縮 減や予算の平準化を図 る。 ・「北九州市橋梁長寿 命化修繕計画」（H22.3 策定、H29.3改定） ・「北九州市トンネル長 寿命化修繕計画」（H25. 2策定、H29.3改定） ・「北九州モノレール長 寿命化計画」（H23.6策 定）	主要橋梁及びトンネ ルの健全性向上によ る市民の安全・安心 の確保	目標	—	—	—	全主要橋 梁及びト ンネルの 健全性Ⅱ 以上 (R5年度)	継続	3,897,000	2,824,600	減額	157,525	課長	1.85	人	順調	今後とも計画的な劣化対策や 耐震対策を実施することによ り、長寿命化を推進する。	順調	今後とも引き続き計画に従って 長寿命化を推進する。		
								実績	—									完了 (R3年度)	係長						3.50	人
								達成率	—										職員						13.50	
23	⑪	⑪	若戸大橋・若戸ト ンネル維持管理事 業	道路 維持 課	若戸大橋と若戸トン ネルは、若松区と戸畑区と を結ぶ本市の重要な路線 である。 日常の道路巡回や、有 事発生時の緊急対応など 適切な維持管理を実施す ることで、市民が安全に 安心して通行できる環境 を確保する。	若戸大橋と若戸トン ネルの適切な維持管 理による、市民の安全 ・安心の確保	目標	—	—	安全な道 路環境の 確保 (毎年度)	—	100,000	100,000	維持	22,000	課長	0.50	人	—	適切な維持管理を実施すること により、市民が安全に安心して 通行できる環境を確保する。	順調	今後とも引き続き計画に従って 長寿命化を推進する。				
							実績	—									長寿命化 修繕計画 の策定 (R2年度)						係長	0.50	人	
							達成率	—															職員	1.50		人
24	⑪	⑪	若戸大橋・若戸ト ンネル長寿命化事 業	道路 維持 課	若戸大橋は吊橋構造、 若戸トンネルは沈埋ト ンネル構造といった複雑な 構造を有している。 このような構造物に対 し、予防保全型の維持管 理を実施し、維持管理費 のトータルコストの縮減 と予算の平準化を図るた め、長寿命化修繕計画を 策定するとともに、長期 的視点に立った事業を推 進する。	維持管理費のトー タルコストの縮減や予 算の平準化および予 防保全型の維持管理	目標	—	—	長寿命化 修繕計画 の策定 (R2年度)	—	250,000	250,000	維持	22,000	課長	0.50	人	—	長寿命化修繕計画を策定する とともに、長期的視点に立った 事業を推進する。	順調	今後とも引き続き計画に従って 長寿命化を推進する。				
							実績	—									長寿命化 修繕計画 の策定 (R2年度)						係長	0.50	人	
							達成率	—															職員	1.50		人
VI-1-(2)- ② あらゆる 主体によ る環境政 策への参 加の推進	25	④	④	長野緑地を利用し た農業体験教室	公園 管理 課	計画地内に複数の活動 エリアを設け、一年を通 してそれぞれのエリアで 有機農業栽培管理や花作 りを体験する市民参加 による農地等の整備、管 理等に取り組む。また、 子どもたちが自然の中 で遊び、学ぶ場を提供 したり、収穫物を使用し たイベントなど、市民の 参加を拡大するイベン ト等を開催する。	農業体験教室への参 加者数	目標	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	継続	2,600	2,750	増額	1,120	課長	0.03	人	順調	今後とも継続して農業体験教室 等を通じた、市民が自然と触れ 合う場や機会の提供を推進す る。	順調	今後とも継続して農業体験教室 等を通じた、市民が自然と触れ 合う場や機会の提供を推進す る。		
								実績	2,070 人									2,000人 (毎年度)	係長						0.04	人
								達成率	103.5 %										職員						0.05	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）		
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数	
VI-2-(1)- ③ 総合的な 緑化・森 林整備の 実施	26	⑪	⑪	「花やみどり」に よる彩りと潤い のあるまちづくり	緑政 課	都市景観の向上と潤い のある街づくりを目指 し、花壇（公共花壇）の 整備を行うと共に、市民 花壇やスポンサー花壇、 うえるっちゃ!花壇と いった、市民ボランティ アや企業・団体と一体と なって美しく快適なまち づくりを推進する。	市民花壇活動団体数	570団体 (H27年度)	目標 610 団体	619 団体	628 団体	628団体 (R2年度)	継続	56,180	56,550	維持	23,150	課長 0.10 人	係長 0.70 人	職員 2.00 人	順調	今後も継続して市民との協働 や街かどの整備など、総合的な 緑化を推進する。	順調	今後も継続して市民との協働 や街かどの整備など、総合的な 緑化を推進する。
VI-4-(1)- ③ 市民と自然とのふ れあいの 推進	27	⑪	⑪	「花やみどり」に よる彩りと潤い のあるまちづくり	緑政 課	都市景観の向上と潤い のある街づくりを目指 し、花壇（公共花壇）の 整備を行うと共に、市民 花壇やスポンサー花壇、 うえるっちゃ!花壇と いった、市民ボランティ アや企業・団体と一体と なって美しく快適なまち づくりを推進する。	市民花壇活動団体数	570団体 (H27年度)	目標 610 団体	619 団体	628 団体	628団体 (R2年度)	継続	56,180	56,550	維持	23,150	課長 0.10 人	係長 0.70 人	職員 2.00 人	順調	今後も継続して市民との協働 や街かどの整備など、総合的な 緑化を推進する。	順調	今後も継続して、街かどの花 壇整備や農業体験教室など、市 民が自然に触れ合う場や機会 の提供を推進する。
	28	④	④	長野緑地を利用し た農業体験教室	公園 管理 課	計画地内に複数の活動 エリアを設け、一年を通 してそれぞれのエリアで 有機農業栽培管理や花作 りを体験する市民参加に よる農地等の整備、管理 等に取り組む。また、子 どもたちが自然の中で遊 び、学ぶ場を提供した り、収穫物を使用したイ ベントなど、市民の参加 を拡大するイベント等 を開催する。	農業体験教室への参 加者数	—	目標 2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	継続	2,600	2,750	増額	1,120	課長 0.03 人	係長 0.04 人	職員 0.05 人	順調	今後も継続して農業体験教室 を実施する。	順調	今後も継続して、街かどの花 壇整備や農業体験教室など、市 民が自然に触れ合う場や機会 の提供を推進する。
VII-3-(2)- ① 東九州地域との連 携	29	⑪	⑪	【施策評価のみ】 東九州自動車道建 設促進協議会の要 望活動	道路 計画 課	【施策の内容】 東九州自動車道建設 促進協議会の要望活動	【施策の指標】 東九州自動車道の建 設促進	—	目標 —	—	—	東九州自 動車道の 建設促進	継続	—	—	—	—	課長 — 人	係長 — 人	職員 — 人	—	—	順調	今後も沿線自治体と協力・連 携して要望活動に取り組む。